けやき 欅 の こころ 魂

村西空手道部通信　第 10 号（令和 6 年1月 22 日）

【関東選抜報告】

2024 年 1 月 17 日（水）、東京武道館で高体連の関東選抜大会が予定通り行われました。初戦は千葉県立船橋東高校で先鋒は小野選手。小野は順調に得点を重ねて8ポイント差の完全勝利。試合時間2分をかなり残しての見事な勝利でした。続く中堅は岡部選手。岡部も順調にポイントを重ねるかに見えたが、相手の上段蹴りにより3ポインを取られて逆転される。それでもまだ余裕が感じられ、あわてずにポイントを稼ぎ、再逆転して最後は余裕の勝利。大将は水村選手。水村も突きによるポイントを先取すると、続いて中段蹴りで2ポイントを得点するなど、見事に勝利しました。結果、初戦は危なげなく3：0の完勝でした。

二回戦は昨年全国3位だった山梨県立甲府第一を一回戦で敗退させた神奈川県立横浜修悠館高校です。この学校はホームページを見ると通信制の学校のようですが、一回戦の様子からはなかなかの強豪です。本校は一回戦の第二試合だったため休憩時間もなく2回戦へと進みました。選手の順番は一回戦と同じ。疲れがあったとは思えなかったが小野選手は突きにより先取（相手よりも先にポイントをあげること）を取った後で相手の上段蹴りにより3ポイントを取られて逆転される。その後も、積極的に攻めていったが、相手がうまくかわしたり場外に逃げたりして危機をしのぐなど、試合さばきは一枚上だったか。続く岡部も自分の試合をさせてもらえずに敗退。ルールにより二回戦目からは勝敗が決まった段階で終わるため大将戦を待たずに敗退しました。

選手はみなはつらつとしていました。全員が1年生というできたてのチームであることを考えれば、ここまで来たことは大成果。お疲れ様でした。

【大会は人間成長の場】

試合に先立って私が生徒に伝えた言葉は、「この大会を通じて自分の成長を実感してほしい」、ということでした。結果は相手によって変わるもの。勝つことは大事なことですが、生徒にとって、一番重要なことは、このような場を通して人として成長することです。人間は生まれてからは日々体が大きくなり、普通に暮らすだけで精神的にも知的にも成長していきます。意識しなくても体が大きくなって人間として発達するのです。それは、遺伝子によってそのような発達過程が組み込まれているから。だが、それも思春期まで。やがて遺伝子だけでは成長できなくなります。そこからどうやって成長していくか。ここからが大変です。人生は長い。成長しなければどんどん苦しくなっていきます。遺伝子任せの成長が終わった後は、自分で意識的に成長するしかありません。その第一歩、基礎を作るのが今、すなわち高校時代なのです。そういう意味で、今回は成長のためのすばらしい場がセットされました。この機会を活かしてほしい。そのように考えています。

【傲慢さと謙虚さ】

私が子供のころ母がよく言った言葉に「勝って兜の緒を締めよ」というのがあります。なぜ、母がこの言葉を言ったのかは分かりませんが、小さな成功で得意がったり、自慢したり生意気に振る舞ったりしたときによく言われたような気がします。人は謙虚であれ!!、とよく言われますが、これは単なる道徳律ではありません。広い大海（人間社会）で生きるには謙虚さは必需品であり、命綱なのです。これがないとたちまち大海（人間社会）に溺れてしまいます。逆に傲慢さ（独りよがり）は鉛を手足に付けているような感じで、大海（人間社会）で生きるには不自由ですし、最終的には沈んでしまいます。海底に沈んだ自分は誰の目にも見えなくなってしまうでしょう。

一方、謙虚さを身に付けていると、たとえ海（人間社会）が荒れていても、また、自分が失敗しても（溺れそうになっても）、最終的に沈むことはなく、誰かが浮いている自分を発見して助けてくれます。そのような命綱となる謙虚さはどのようにして獲得するのでしょう。それを獲得する場の一つが「大会」だと私は考えます。一つの大会出場が人を大きくします。より大きな大会ではより大きく人を育てます。そのように、一つ一つの大会で自分を見つめ、成長の糧を見つけてほしい。それが、私が部活動を指導する目的です。

最初に歴史を作った選手たち。(　　)は出身道場。

2024年(令和6年)1月17日　東京武道館

令和5年度高体連　関東選抜大会　準優勝

左　　水村海音　(空手道研究会武村塾)

中央　　小野志温　(正武館空手道場)

右　　岡部透空　(泊親会一の谷道場)